

第74回

# 梧桐会総会開催

## 5月8日(日) 於・大崎高校



第57号

平成23年4月1日発行  
発行所 梧桐会  
事務局・東京都大田区新蒲田 3-18-1-507 渡部良彦 方  
TEL/FAX 03(3730)8117  
編集人 渡部良彦 進  
発行人 川村英 進  
印刷所 川村英 進



梧桐会会長 川村 治



都立大崎高等学校長 小巻 明

### 創立100周年に思う

梧桐会の皆様今日は。三月十一日に発生した東日本大震災では一万三千名を超える方々の尊い命が奪われ、また一万五千人近い人々の行方が不明となつて

す。また、この大震災では梧桐会の皆様に関係する方々の中にも犠牲になられた方がいらつしやるのではないかと心配しております。さて、今年度は、大崎高校創立100周年の年であり、十月二十九日(土)には大井町駅前「きゅりあん」で記念式典を実施いたします。一昨年度から梧桐会の多大なご尽力をいただきながら準備を進めて参りました。四月からは詰めめの準備に取り掛かっているところです。同窓の方々をはじめ本校関係者にとつて一生に一度の記念すべき催事であり、全てを滞りなく進行できるように、自覚を新たにしているところです。昨年度から、創立100周年を期に、長い伝統と歴史を

### ご挨拶

まずもつて、此度の東北地方太平洋沖地震災害におきまして、犠牲と成られた方々とご遺族に対しまして、衷心よりお悔やみを申し上げます。又、被害に

会員のうちにも震災被害に会われた方がいらつしやるのではと案じております。日頃は同窓会「梧桐会」の活動に対し深いご理解ご協力、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。平成二十三年三月には大崎高校の第62回卒業式が行われ、今年も二九名の方々に梧桐会新会員として入会して戴きました。「梧桐会」では、会報の発行については事務局を中心として、掲載原稿の依頼や特集記事の企画編集等に大変頑張つてもらつております。又総会につきましても幹事会を何度も開催し、副会長を中心に全責にて準備を進めているところで、今年も「五月八日(日)母の日」に、大崎高校内の食

### 平成22年度卒業 梧桐会新幹事

- A組 平良 涼・三浦晋平
- B組 坂上麻人・石川絵理
- C組 石原聖也・横田彩音
- D組 伊藤真樹・萩原未沙
- E組 中村宇宙・村山香織
- F組 中村洋介・落合千波

### 東日本大震災時の大崎高校

この度の大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。三月十一日は、本校の卒業式の日でした。式後、卒業生が校舎内で催された方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。本校の校舎は免震構造で、倒壊する危険はほとんどありません。体育棟

### 第74回 梧桐会総会

日 時 5月8日(日) 母の日  
12時30分(受付開始)  
13時~16時

会 費 2,000円(新卒者 無料)  
当日会場でお支払いください。

プログラム  
会長の挨拶  
学校長の挨拶  
会務報告  
会計報告  
その他

堂にて開催致します。本年は大崎高校創立100年の記念すべき年で有りませので、創立100周年記念梧桐会総会と銘打って行います。会員の皆様方にはぜひ、同級・同期・先輩・後輩の方をお誘い合わせのうえ、多数ご出席下さいませよう心よりお待ちしております。今秋十月二十九日(土)には創立100周年記念式典及び祝賀会が催されます。平成二十二年九月に学校・PTA・同窓会を中心に「100周年実行委員会」を立ち上げ、これまでに二回の会合を重ねて具体的な活動を行つて参りました。祝賀会の開催詳細要領につきましては、本紙下段にてお知らせを致しておりますが、祝賀会には梧桐会会

### 東京都立大崎高等学校創立100周年記念祝賀会について

日時 平成23年10月29日(土) 午後  
場所 JR大井町駅前「きゅりあん」  
会費制(6000円程度の予定)です。  
梧桐会では参加100名程度の枠があります。  
人数によっては抽選になることもあります。予めご了承ください。

百周年記念祝賀会に出席を希望される方は下記の要領でご連絡願います。後日、事務局より案内状をお送りします。

- ①梧桐会事務局へメールを送る aogiri\_kai@yahoo.co.jp
- ②梧桐会事務局へFAXを送る 03-3730-8117
- ③梧桐会事務局へはがきを出す  
〒144-0054 大田区新蒲田3-18-1-507 梧桐会事務局あて

※電話は受け付けません。締め切りは平成23年5月31日(火)です。  
以下をお伝えください。(すべて)

- ①会員番号(宛名に印字してある5桁(旧職員は4桁)の数字  
わからない場合は卒業年度(昭和51年3月卒業ならば昭和50年度卒)
- ②氏名(フルネームで)
- ③郵便番号、住所(正確に)
- ④電話番号・FAX番号(急な連絡の時に連絡のつく番号)

### 寄付のお願い

すでにお伝えしておりますが、本年(平成23年)10月29日(土)に創立100周年を祝う記念行事が開催されます。梧桐会では周年行事に出来る限りのご協力をしていきたいと思っております。つきましては会員の皆様方にご寄付を頂戴したいと存じます。同封のお名前を打ち込んだ払込取扱票をご利用いただき、最寄りの郵便局にて払い込みをお願いいたします。金額はお気持ちで結構です。宜しくお願い致します。

やグラウンドにいた生徒は、すぐに校舎内に避難させました。地震発生時、筆者は卒業生の保護者と三階の職員室で面談中でした。最初は特に地震を気に留めず話をしていましたが、次第に揺れが激しくなり、保護者は机にしがみついていました。免震構造の建物には特に最上階の揺れが激しくなるのでしようか、七階が最も揺れたようで、七階の音楽室にいた吹奏楽部の女子生徒のなかには泣き出す者もいました。また、祝入会の片付けで二階の会議室にいたお母さんの一人は、腰を抜かし立てなくなつたそうです。とはいえ、付近の他の建物より揺れは小さかったようです。品川区内の学校の図書室では、本が棚から飛び出て散乱したとのことですが、本校の図書室の棚からこぼれ落ちた本は一冊もありませんでした。免震構造の建物の揺れは独特の緩やかな揺れで、乗り物酔いをしやすしい人は気分が悪くなるような揺れではありませんでした。卒業式を終えた数時間後であったので、校内にいた生徒の数は少なかつたのですが、帰宅できない生徒もおり、三十一名の生徒が校内で一晩を明かしました。また、本校は「帰宅支援ステーション」となり、都民十三名が宿泊し、備蓄していた非常食と毛布を提供しました。生徒たちは不安な時を過ぎましたが、皆で励ましあひ、支えあつていこうとする姿が印象に残つた一夜でした。

# 卒業五十五年目のミニクラス会

in 大船渡

二〇一〇年八月七日、今年梅雨があけると同時に近年にない猛暑続きとなりこの日も朝からよいお天気でした。

都立天崎高等学校を昭和三十年三月卒業、以来、今年五十五年目となりました。

東京近郊に住むクラスメイトが多い中で、橋爪君は岩手県の大船渡市に在住で、去年の同窓会の時、「海がきれいだよ、大船渡へ来ない？」と誘っていたいた事もあり、今年の夏、大船渡行きが実現することになりました。

何人かに声をかけた結果、参加者は六名となりました。宇田君と五味君は、橋爪

君とも親交があるので、何かと今回の幹事役になっていただき、五味君には全員の切符の手配などをしていたいて、とてもお世話になりました。

一ノ関まで二時間十分そこから大船渡線のスーパードラゴン号に乗り換えて東京出発から四時間三十六分、やっと大船渡に到着。下車すると、橋爪君が待っていて下さいました。まずは彼の家を訪問、美しくやさしい奥様に、あたたかく迎え入れていただきました。

お夕食はブラザホテルに用意されていました。まんぼうのお酢の物に、ほやなど珍しい御馳走や、奥様差し入れで、とれたてのいかのいかそうめんをいただいたて、おなかも大満足になりました。

最初は、南三陸の巨岩奇岩で有名な碓石海岸の穴通磯へ行きました。八人乗りの小型漁船にライフジャケットを着て乗りこみ、波を乗り越えて、海水の浸食によって開いた、三つの穴を持つ巨大な岩へと近づき、その岩の穴をく

ぐりぬけて、スリル満点！爽快な気分を味わい、大変アクティブな経験をしました。何万年もの時の経過によって形づくられた地層の岩を、目の前に見ながらの体験で、遊覧船ではとても味わえないものでした。

## 会員だより

### 還暦を迎え61名が

### 新たな決意と誓いを確認

### 43年度卒同期会が盛大に開催

柴田 和重 (昭和43年度卒)

平成22年5月9日(日)、東京の品川プリンスホテルにて43年度卒同期会が61名の出席のもと、盛大に開催されました。今回は全員が来年の3月までに60歳を迎えることから「還暦同期会」と銘打ち、通常の各自の近況報告に加え、全員用意した赤いチャンチャンコと烏帽子をはおり記念写真に納まり、互いにこれまでの労苦をねぎらうとともに第二の人生に向けて新た

な旅立ちを誓い合う大変思い深いものとなりました。いつもですと、総幹事である私が司会を担当し、会進行させていくのですが、今回は私が平成21年11月に食道ガンの手術により発声機能を失い、司会進行が不可能なことから、大徳(E組)・寺西(C組)の両君に代わり担当していただきました。まず司会の、開会の辞のあと、B組の担任であられ

だに痛感していると聞かれましたが、当日出席した山本洋二君(H組)などは高校時代に田代先生に赤点をつけられたことが英語に奮闘するきっかけになったと感謝していました。彼は今では石油資源関連企業の現地責任者として日本の石油原料確保に向けてアブ Dhabiの政府高官と流暢な英語で堂々と交渉合っているとの事です。田代先生ご安心下さい。ちなみに田代先生は現在、埼玉県越谷市にご在住ですが2回ボランティアで詩の朗読会をされているとのこと。次に司会より前日から今回までに物故された方の報告がありました。この同期

会にも何回か顔を出して頂いたH組担任の坪田先生が、昨夏亡くなったのは残念でなりません。そして、しばし歓談のち全員で各組の集合写真と還暦記念のチャンチャンコ写真を撮影し、最後はさいたま弁護士会の会長も務められた中山福二君(D組)がしめてくれました。思えば我々43年度卒業生はあの有名な高崎学校制度導入前の最後の大学入学生でした。しかし我々の学年は結構優秀な人材が揃っていたと総幹事としては自負しております。387名の同期生の内、司法試験合格者3名(D組中山、F組松倉(故人)、F組谷口)、国

立の医学部合格者2名(京大1、東大理Ⅲ)を輩出したことは誇りに思います。またネットの事典等では大崎卒業生OBとして歌手のチャー、女優の真行寺君枝さんなどが紹介されていますが、我々としては同期である井上泉君(C組)が見落とされておられるのは心外でありませぬ。彼は岡嶋一人という共作家としてデビューし、1982年に「焦茶色のパステル」で第28回江戸川乱歩賞受賞、「99%の誘拐」で第10回吉川英治文学新人賞を受賞、89年に共作を解

消し井上夢人として数々の作品を発表、現在も山梨の清里にあって旺盛な執筆活動を続けています。ともあれ我々も60という節目を迎えましたが、まだまだ人生はこれからです。男性であろうと女性であろうと今後の人生に対して、どのように向かい合っていくべきなのか、それぞれの対応が問われています。しかし、そうした状況にあっても利害関係が無く何の気兼ね無しに相談できる、また助け合えるのが高校の同期の仲間だと思います。今後とも2年に一度の割で同期会を開催していくつもりです。



昭和43年度卒還暦同期会 2010.5.9

船が浮かび、打ち上げ花火や水中花火、仕掛け花火、たつぷりの花火を特等席で観覧させていただき、最後に、きれいに飾られた大きな台船の上で歌や踊りが披露され、観客に大サーブス。我々のメンバーの中にも、今日出演された大沢桃子さんのファンの人がいて、さぞかし満足できた事でしょう。花火の美しさに余韻を残しつつ、そのあとカラオケのできるバーで二次会があり、皆さん口ごろきたえ腕ならぬ喉を次々に披露され、また、橋爪君ご夫妻のデュエットもあって、とても素敵でした。

二日目のスケジュールは、午前中遠野、午後平泉をめぐることにしています。朝九時出発、九人乗りの車が準備されていて、橋爪君の野球仲間のお友達が運転して、一日お付き合いをして下さるようになりました。ホテルを出発して間もなく、橋爪君の会社、橋爪君の会社の子会社だそうです。大船渡湾を、イルミネーションで飾られた数々の

珍しい洞穴へ立ち寄ることになりました。名前は竜洞(ロウカンドウ)、立て札に高血圧の弱い方は遠慮くださいと書いてあります。宇田君は最初から僕はやめておきますと辞退され、私もどうしようかなと思いましたが、勇気を出していくことにしました。長靴にはきかえ、ナイロンのジャンパーを着て、ヘルメットをかぶり、いざ洞穴へ。中に入ると急に温度が下がり、七度くらいとか。這うようにして進み、手すりにつかまりながら、こわごわ進んで行きました。奥まで七百メートルあるそうですが、半分の所で清水君が引き返され、とても心細かったのですが、何とか七百メートル進んだところで行き止まりとなり、広くドームのようになっている、上部の岩の裂け目から、落差二十九メートルの滝が流れ落ちていて、とても神秘的な光景でした。次に、遠野の福泉寺へお

参りして、山の上にある大観音堂まで山登り、観音様は一本彫りのもので、総丈十七メートルもあって、日本最大とか。そこまで登りきれず、途中で息がきれてしまい、宇田君と女性二名は、途中のベンチで休憩を取りました。次は、平泉まで車でひた走り、最後の行程である中尊寺へと向かいました。中尊寺では、月見坂を歩いて本堂へ向かいましたが、このあたりまで来るとさすがに寄る年波で、歩くのがだんだんきつくなってきて大変でした。橋爪君と五味君は、平素野球とウォーキングで鍛えているのでさすがに歩くのが早く、その他のメンバーは本堂を参りするのがやっとで、これ以上歩くに熱中症で倒れるかもしれない、という位疲れてしまい、疲れた方にはその辺で休んでいていただいて、有志四名で金色堂の内部を拝見して来ました。大分予定の時間を使ってしまいましたが、これで全行程を完了し、帰るべく一ノ

関へと向かいました。ところが、駅ではなく、一ノ関で橋爪君の親戚の方が経営されている素敵なレストラン「トロント」にご案内いただき、思いがけず韓国家庭料理のお夕食を御馳走になり、一泊一日にしては大変盛り沢山のスケジュールに、何日分も楽しんでような充実感をもって総勢七名のミニクラス会も無事に終了しました。ここで橋爪君とはお別れです。橋爪君ご夫妻にはすっかりお世話になり、感謝いたしております。帰りの新幹線でも、おしやべりのときれることがありませんでした。何年経っても同級生というものです。



昭和29年度卒ミニクラス会 2010.8.8

- 参加者
- 伊藤 豊
  - 清水 昭一
  - 美藤 晶子 (岩倉)
  - 宇田 秀樹
  - 橋爪 幸平
  - 五味 光
  - 浅井昌美子 (羽山)

追伸  
楽しかった大船渡訪問の原稿を書きましたが、三月十一日に未曾有の大地震と大津波「東北関東大震災」が起り、思いもかけないことに驚いております。幸いにも、三月二十一日に五味君の掛けたお電話が橋爪君に通じてお元気が

梧桐会のアドレス

URL : <http://www.aogirikai.com/>

Mail : [info@aogirikai.com](mailto:info@aogirikai.com)

連絡先変更フォーム : <http://www.aogirikai.com/archive/form.php>

原稿の送り先 : [aogiri\\_kai@yahoo.co.jp](mailto:aogiri_kai@yahoo.co.jp)

# 懐かしい校門と再会した古希 青春の友の大切さ改めて思う

堀川 (石倉) 優子 (昭和33年度卒)

母校が創立百周年を祝う (一九五九) 年卒業の世  
今年、私たち昭和三十四 代は、三月までに全員が



「青春の門」の前で 織田邦彦さん撮影

母校が創立百周年を祝う (一九五九) 年卒業の世  
今年、私たち昭和三十四 代は、三月までに全員が

七十歳「古希」を迎えま  
した。そんな記念の年、同窓  
会報に寄稿せよとお話を  
いただき戸惑いましたが、  
「名譽なことよ。改めて人  
生を振り返り、青春の記録  
を残してもらおうチャンスじ  
やないの」と勇気づけてく  
ださる方もあって、恥をし  
のんでパソコンに向かって  
おります。

私たちは昭和十五年生ま  
れが多いので、世界史の小  
林元亨先生が「いちご」と  
いう名を同期会に付けてく  
ださり、十年に一度ほどの  
割で集いを開いてきました。  
昨年三月、そのいちごの  
有志の方から一通の案内状  
が届きました。

「昭和三十一年春、私た  
ちはピカピカの高校一  
年生として大崎高校の正門

をくぐりました。その門の  
ルーツは江戸大名屋敷に遡  
るとかで、初々しい新制高  
校の校風には不似合いな風  
体でした。

五十年を経て、あの門  
が今も山中湖畔に立つて  
いると聞き、会ってみたい  
になりました。ちよつと気取  
つて「青春の門と再会する  
旅」。タイトルは五木寛之  
さんに無断借用です。一緒  
に出かけませんか……」

案内状は続きます。  
「青春の門? 何それと  
いう人も少なくありません。  
当時、新しい通用門が別に  
造られ、登下校はそちらを  
通るようになっていたから  
でしょう。古い門はだんだ  
ん皆の関心も薄れ傷みが進  
むまです。私たちが卒業  
する半年前の三十三年秋  
何故か急に山中湖へ移され  
ることが決まりいつの間  
にか姿を消した、という感じ  
だったので。学校が別  
れ会を開くこともありませ  
んでした。

でも、思い出せば妙に懐  
かしい門であります。私  
たちには、

うちに様々な人生があった  
ように、あの門にも厳しい  
風雪に耐える日々があった  
に違いない。屋根は  
剥がれ柱は朽ち、幾たびか  
の改修を重ねた今、どんな  
姿になっているでしょう。

面影は薄れても、同じ大崎  
で同じ時を過ごした私たち  
とは、心かよう何かが残っ  
ているはず。  
いちご会いにおいてよ  
……めでたく古希を迎えた  
後輩を、百九十歳の老門が  
呼んでいるかも知れません。  
時は四月。校歌の歌詞を  
のまに「富士を仰ぐ」舞  
台。大先輩の前に並び「桜  
咲けば」の合唱を聴かせて  
あげるのほどうでしょう。  
そうすれば、私たちが青春  
の真只中に戻って、懐か  
しい学び舎の香に束の間で  
も触れることができる……  
そんな気がします」

古びたあの校門が現存す  
るなんてホント?……四  
月十二日、花冷えの雨の  
朝、小田原駅前女子十八  
人、男子十三人のいちご仲  
間は、

間が半信半疑で集合しまし  
た。貸切バスのフロントガ  
ラスには、乗客に不釣合い  
な「青春の門」のステッ  
カー。若者のツアー顔負け  
の騒々しさを乗せ、バスは  
芦ノ湖ドライブウエー經由  
で山中湖へ向かいました。  
どしどしした黒い門は母  
校にあった昔よりずっと  
立派に改修され、しゃれた  
レストランの入り口にデン  
と構えていました。バスが  
横付けされると車内にどよ  
めきが起き、皆さん口々に  
「うわーっ! こんなに大  
きかったの?」

幹事さんが後日、参加者  
ひとこと集をつくりまし  
た。再会した瞬間の感動が  
思い思いに綴られていま  
す。「門は大きく腕を広げ  
て待っていてくれた」、「校  
庭の桜、先生、友、切ない  
恋が一気に思い出され、涙  
が出るほど懐かしかった」、  
「ほかの世代の卒業生も、せ  
ひ見て欲しい」……私も、  
案内プレートに刻まれた  
「大崎高校」の文字と由緒  
ある謂れを読み、何度も下

をくぐり、校歌を歌いなが  
ら「これからもずっとここ  
に立っていてね」と心で声  
をかけました。  
もともと、時代劇にもよ  
く出てくる酒井雅楽守の江  
戸上屋敷にあった薬医門が  
明治四年に大蔵省正門、三  
井別邸(戸越)の表門を経  
て昭和二十五年に大崎に寄  
贈。八年前校門とされたど  
か。私たちはちよつとどの  
時期に在学したのです。今  
の正門から20分ほど左寄り  
にあったと記憶しています。  
この日は近くの「時の  
栖」で一泊。時ならぬ寒波  
で冷えた身体を湯で温め、  
夜はにぎやかな懇親会に興  
じました。高校時代に戻っ  
たようにはしゃぎ、笑い、  
時に亡き友の思い出に涙し  
合い、あつという間に時が  
過ぎ去りました。クラスが  
違ひ話をしたことのない人  
でも、同じ学び舎で同じ時  
間を過ごした共通の思い出  
を持つ友。五十年の歳月など  
まるでなかったようにすぐ  
打ち解ける。それが青春の  
友なのでしょう。

仕事を一線を退き、家事・  
育児から解放されて自分を  
取り戻した今、青春の仲間  
が無性に懐かしく思えてく  
るのは皆さん同じなのでしょう。  
何かと集まる機会が  
増えました。  
卒業五十周年の「昨年春  
には、「修学旅行」と同じ  
日、同じコースをたどる旅  
をしませんか」と呼びかけ  
る方々があり、広島と京都  
へ「再現修学旅行」が実現  
しました。これには二十六  
人が参加、上山幸一さんが  
「会報」第55号で詳しくレ  
ポートされました。  
私の場合、家庭を持ちそ  
れなりに幸せな日々を送  
っていました。夫が突然  
「不治の病、現状維持がベ  
スト」と告げられ、それか  
らの二十二年間は共に病と  
闘う年月でした。三年前の  
六月にその夫が世を去り、  
三月月も経たぬうちに区画  
整理で住み慣れた家を追わ  
れ仮住まいを強いられました。  
疲れ果て思いあぐねて  
いたところへ「再現修学旅  
行」のお誘いを受けたと思  
い切つて参加しました。昔  
と同じ宮島の宿。懐かしい  
思い出を一夜存分に語り明  
かし心を救われました。そ  
して一年後、ロマンといっ  
ぱいの青春の門ツアーでまた  
元気をもらったのでした。

昨年九月二十六日には横  
浜で「古希を祝ういちご  
会」。岡川庸子さん、鈴木  
康雄さん、渡邊敬治郎さん  
三幹事の並々ならぬご尽力  
で、関西勢を含む五十八人  
が参加する盛会となりました。  
この間、B組の草間祥介  
さんが日本伝統工芸展で陶  
芸部門入選の快挙を果たし、  
二十余人が銀座で祝賀の宴  
を営み、男子グループ  
で数学の宮本哲夫先生のお  
墓参りに出かけたそうです。  
この春には国語の岩井彦彦

先生の墓に参るとお聞き  
しています。こうして、き  
っかけを探しては皆で集ま  
る機会をつくりあつていま  
す。  
「いちごのホームページ」  
というのも開設されて  
いて、「古希コレーション  
雑感」「みんなガムバル  
ちゃん」「ちよいとデジカ  
メ」「懐かしの写真集」「青  
春の歌リクエスト」「友情  
プラント運動」などのコー  
ナーで近況を報告し合いま  
す。私もパソコン教室に通  
い、息子と娘から覚えが悪  
いと叱られながら「七十の  
手習い」で時々投稿します。  
横浜の同期会で挨拶した  
方が、「古希」の言葉の  
原点になった杜甫の詩「曲  
江」を引用し、「青春の友の  
有難さ大切さを語っていま  
した」。

「唐の都・長安で失意の  
暮らしをしていて杜甫は  
風光明媚な曲江のほとり  
で花の間を舞うチヨウや水  
面に身を付けています。お互  
いに自然の風景よ、風物よ、  
『人生七十古来稀なり』。  
所詮、人は七十まで生きる  
ことは少ないのだ。その短  
い時間、いがみ合うことな  
く共に生きてゆこうよ……  
これからの時代、古来マレ  
は九十か百かほとともかく、  
いちごの仲間も、残り時間  
を互いに慈しみ合いながら  
歩んでゆこうではありませ  
んか」

「古希」の出版は私も知  
っていました。でもこんな  
美しい詩だったとは。漢文  
授業に熱心でなかつた私は  
自分がその歳になつて初め  
て深い味わいを知り、目か  
らウロコが思いでした。  
私は去年暮れようやく移  
転先の家が完成し仮住ま  
いを脱却したのですが、ま  
だ山積みの引越越し荷物を  
開けながら古い手紙が出て  
きたりして手が止まります。

亡き友との旅先の写真など  
が見つかると回想に引き込  
まれ涙が流れます。同期の  
友は私にとっても特別な存  
在です。これからも会う回  
を重ね、絆が深まることを  
願います。  
会場で幹事さんが即席の  
アンケートをとりました。  
「いちご会は今後どれくら  
いのペースで開きましょ  
うか?」――挙手が多かつた  
のは「二年に一度」でした。  
手回しよく、二年後の幹事  
の人選まで進み、女子クラ  
ス又はD組・松原恵子さん、  
男子は織田邦彦さん。二人  
では負担が重いということ  
で宮本武紀さん、そして私  
がサポート役をするよう要  
請されました。

還暦が「人生のリセッ  
ト」といわれ、そこから起  
算して七十歳は、二度目の十  
歳。第二の青春への入り口  
です。第一の青春と違い、  
こんどは皆、経験と知恵を  
身に付けています。お互い  
蓄積を生かせば、昔よりさ  
らに楽しい「青春」を謳歌  
できるような気がします。

それは古希の歳まで命を  
いたしている者の特権でし  
ょう。特権を自いついば享  
受するためにも、健康に心  
がけながら、二年後の準備  
のお手伝いをしようと思  
っているところです。  
【追記】原稿を送信した直  
後の三月十一日、あまたの  
命を奪う大震災が起きまし  
た。古希まで生き永らえる  
とは、これほどの悲惨さを  
も目の当たりにしなければ  
ならないことなのかと、思  
い知らされました。古希を  
生きる喜びばかり書き連ね  
たことを悔いています。し  
かし印刷日程の中で全文を  
書き直す余力もなく、追記  
の形ですが、犠牲となつた  
すべての御霊に改めて哀悼  
の誠を捧げたいと存じます。  
合掌。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。



満開の薔薇園での集合写真 (2010.11.7)

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。

## 近況のご報告

生駒 勇美 (昭和41年度卒)

S41卒のホームページ  
<http://www.geocities.jp/osakhs41/>

昭和41年度の卒業生では、  
毎年5月に行われる梧桐会  
の総会以外にも随所で有志  
による同期会やクラス会を  
開催して旧交を温めていま  
す。今回はそのいくつかを  
ご紹介いたします。

(1) 昨年の梧桐会総会が行  
われた5月9日(日)の午前中  
有志による「昭和の暮らし  
博物館」の見学会を行いました。  
「昭和の暮らし博物館」  
は大田区久が原にあり、  
昭和30年代の民家や調度品  
などの生活様式を当時の状  
態でそのまま保存していま

す。  
8名(男性6名、女性2  
名)が参加し、同世代が過  
ごした昭和の時代にタイム  
スリップして当時の懐かし  
い生活様式を振り返つてみ  
ました。

(2) 昨年7月10日(土)の夕刻  
46年前の2年D組の仲間21  
名(男性9名、女性12名)  
がJR浜松町近くのピザレ  
ストランに集まり、クラス  
会を開催いたしました。  
生駒担任の松下先生(数  
学)は欠席でしたが、お  
互いに再開を喜び合い、時

(3) 昨年晩秋の11月7日(日)  
には前年の「小田原の歴史  
と文化の見学会」に続いて  
有志による「満開の薔薇園  
見学とお茶会」を開催いた  
しました。  
参加者10名(男性6名、  
女性4名)が満開の薔薇の  
香りが漂う園内で久しぶり  
に高校時代に帰り、楽しい  
ひと時を過ごしました。ま  
た、後半のお茶会では高校  
時代の懐かしい話や情報交  
換で盛り上がりました。薔  
薇園では集合記念写真を撮  
影したので思い出の一  
駒になったことと思います。

間が経つのも忘れて旧友と  
語り合いました。また、二次  
会のカラオケや三次会のお  
茶会では夜遅くまで昔話に  
花が咲きました。

このほか、同期では気分  
の知れた仲間同士での飲み  
会や忘年会、新年会、ゴル  
フコンペ、お茶会などが盛  
んに行われており、これら  
は定年後生活の「潤滑剤」  
になります。  
十二支を一巡して選歴を  
過ぎると人生がリセットさ  
れて、今まで積み上げてき  
た地位やプライドの殻を脱  
いで、旧友との利害関係の  
ないお付き合いが始まる気  
がいたします。  
我々年代の共通の話題は

「健康第一」と「趣味によ  
る豊かな人生」だと思いま  
す。各会合ではお互いに情  
報交換を行い、次回の再開  
を約束いたしました。  
『20歳を過ぎての大半の  
病氣は自分に原因がある』  
とも言われますが、元NH  
Kアナウンサーの鈴木健二  
氏の「健康は自分への最高  
のプレゼント」は名言だと  
思います。  
同期の皆様、これから日  
増しに暖かくなりますが、  
健康には留意されてお元氣  
にお過ごし下さい。  
なお、今年5月8日(日)の  
「母の日」の午後には恒例  
の大崎高校同窓会「梧桐会  
総会」が母校で開催されま  
すので奮つてご参加くださ  
い。



満開の薔薇園での集合写真 (2010.11.7)

